

京都教区時報

今月の小教区の頁 — 大和八木教会

第59号

発行所

京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室(Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編 集 部 教理センター
田中司教認可

四旬節を迎えるに当つて — 信仰の見直しに眼を向けて —

京都司教 田中 健一

「光陰矢の如し」と申しますが、まさにその通りの実感です。つい先日、クリスマスの準備をと、短い「メッセージ」をこの時報でお届けし、クリスマス、新年を記念をしたかと思いましたら、今月末にはもう四旬節を迎えます。初めも無く終りも無い神は、休むことなく私たちを「自分の方へと導いて下さいます。

四旬節は申す迄もなく、復活祭儀を準備するためには設けられており、主の復活は私たちの信仰の中心であります。この信仰宣言へと召された洗礼志願者は、この期間に入信の諸段階を通じて過越の神秘へと近づき、信者である私たちは既に受けた洗礼に想いを深め十字架と復活の奥義に結ばれて償いの業を通じ、神の救いのみ業により一層参与するよう招かれます。

旅する教会といわれる私たちはマンネリ化した日々の過し方ではなく、召された信仰について、信仰者の一人としての使命について、知識においても、生活全体においても自分を見直して行かなければならぬ聖節と思います。

全世界で、この見直しが進められているようになります。私たちが信じさせて頂いている福音とは何か。神が支配する社会即ち神の国とは何か。その到来を告げ知らせ、その完成のためにしるしであり、道具でなければならぬ教会とは何か。その教会のメンバーで

△一月十九日㊂ 精華聖マリア幼稚園祝別式

△一月二十一日㊂ 南部壮年連合会の集い

△一月二十三日㊂

教理センター理事会

△二月四日㊂ 富雄教会 司祭ミサ

△二月五日㊂ 午前十一時 富雄教会 司祭ミサ

△二月十二日㊂ 午後二時 大阪大司教座式 於・玉造教会

△二月十三日㊂ 午前十時 司祭評議会常任委員会

於・カトリック会館六階

△二月十八日㊂ 午後一時 教区時報拡大編集会議

於・カトリック会館六階

△二月二十五日㊂ 教区使徒連合会

於・カトリック会館六階

△二月二十五日㊂ 午前十時 司祭評議会定例会議

於・カトリック会館六階



教区短信

△二月十三日㊂ 午前十時

司祭評議会常任委員会

於・カトリック会館六階

△二月十八日㊂ 午後一時 教区時報拡大編集会議

於・カトリック会館六階

△二月二十五日㊂ 教区使徒連合会

於・カトリック会館六階

△二月二十五日㊂ 午前十時 司祭評議会定例会議

於・カトリック会館六階

△三月五日㊂ 午前十時 司祭評議会定例会議

於・カトリック会館六階

京都教区時報

い集い司祭の集い？4月1日道士の集い



正月四日、羊の歩みはまだ第一歩、小羊がやつと立ち始める頃? やさしい羊飼? の集いが河原町教会であり田中、古屋両司教及び村上(眞)師を中心によると約55名による共同式ミサが行われた。説教中、特に教会が多く問題をかかえ、不確定な時に直面しており、これに対処するため福音宣教について考え方を直す必要を述べられた。教会は教会のための教会であつてはならず社会のための教会であるべきである。そのため、①福音化していくべき現代社会②自分自身を福音化する事③生涯教育の必要性が要求されている事を指摘し、更に①新教皇の御意向に従つて、教会とは神の民とは、を祈りの中に問い合わせる。そのため、そのため現代世界憲章と教会憲章と特に読み研究する事。更に司教はアジア司教会議において確認された、アジアにおける教会の生命は折りであり、社会に適応しながら、開かれた自分、教区、司教団、教会を作りあげる必要がある事を自覚すべきである。②召命を考える事、青少年教育、信徒リーダーの養成、家庭のキリスト教化等について考えるべきである。

正月四日、羊の歩みはまだ第一歩、小羊がやつと立ち始める頃? やさしい羊飼? の集いが河原町教会であり田中、古屋両司教及び村上(眞)師を中心によると約55名による共同式ミサが行われた。説教中、特に教会が多く問題をかかえ、不確定な時に直面しており、これに対処するため福音宣教について考え方を直す必要を述べられた。教会は教会のための教会であつてはならず社会のための教会であるべきである。そのため、①福音化していくべき現代社会②自分自身を福音化する事③生涯教育の必要性が要求されている事を指摘し、更に①新教皇の御意向に従つて、教会とは神の民とは、を祈りの中に問い合わせる。そのため、そのため現代世界憲章と教会憲章と特に読み研究する事。更に司教はアジア司教会議において確認された、アジアにおける教会の生命は折りであり、社会に適応しながら、開かれた自分、教区、司教団、教会を作りあげる必要がある事を自覚すべきである。②召命を考える事、青少年教育、信徒リーダーの養成、家庭のキリスト教化等について考えるべきである。

③然し種々の問題、種々の願いがあるが何を優先させるかを質問に判断すべきであると指摘された。ミサ後五つのグループに別れ、夫々の組で司教の話をきつかけとして種々の話し合いがもたらされた。時間も十分でなく、十分な討議も出来なかつた事が惜しまれる。それでも、ずいぶん多くの意見が出された。その内容をすべて記す事は不可能なので、その中のいくつかの興味ある意見を記したい。

「社会との繋がりに関する意見の中で、福音化とは何かをはつきりさせるべきではないか。宗教の必要性を感じていても、カトリックにならない人がいるのは、カトリック学校の存在意義を問い合わせる。事業ではなく宣教する事を忘れない事。未信者に聞く心、地域の未信者との繋がりをもつ事の出来る集いを考えるべき等。世俗化のはげしい日本、非福音的考え方習慣の打破への努力等。」

二、教会自身に関する意見

教会とは何かその使命と目的をはつきりさせる事、各教会の繋がり(小教区、教区間はもちろんアジアにおける日本の教会)を考えねばならぬ。教会の中で種々の活動をしている人への互いの理解協力更に互いに自分に代つてやつてもらつていると云う意識等の必要性。おもしろい意見として、教会が社会にひきずりまわされているのではないか。典礼は多くなつたが祈る事が少くなつているのではないか。

いかと云う意見であった。

三、信徒の養成に関するもの

接宣教は信徒を通してやるべきであるそのため信徒リーダーの養成が大切。聖書を読むにしても自分のものとして自分で読める様に助けるべきである。司祭の協力者と云うより社会の証人としての信徒の養成が大切なではないか。

子供の養成、家庭での信仰生活、祈りの生活を大切にすべきだ。勉強に忙しそぎして何か出来ないか。司祭が秘跡とみ言葉の奉仕に専念出来る様信徒の御理解が必要である。更に興味ある意見。神を信じていてもキリストと出会いがない信徒と云える人がいるのではないか。

四、宣教に関する意見

宣教の場としてのミサを考える。聖書研究会は未信者に好まれる様である。奉仕者との繋がりをもつ事の出来る集いを考えるべき等。世俗化のはげしい日本、非福音的考え方習慣の打破への努力等。

五、教会自身に関する意見

奈良県下8教会で構成する司牧評議会では、毎年すべての信者が参加出来る機会を持っているが、本年度は、パウロ6世の「福音宣教」、田中司教の四旬節教書を受けて「福音宣教による使徒職活動」という大テーマに取り組むことになり、2度の準備会や、各教会での討論会等を経て、昨年11月12日高田教会に於いて、司牧評議会総会が開かれた。

折り悪しく冷雨の降る中を、高田教会に集った百数十人の信徒により、(1)子供の要理教育。(2)一般社会での

活動による証、宣教される国でなく、する国としてアジア、アフリカ、南米に向けられるべきである。布教方法について例えれば立正俊成会の方法を研究してみるべきではないか。更に求道者の生活に対応した布教方法が大切である等。

六、教区レベルの課題に関するもの

その中で一年又は何年か先の教区の目標を立てるべき、教区レベルで教皇様の意向に従つて共同で何かすべきでないか。

宣教運動を推進する行事、運動、又信徒の子供の信仰教育、宣教活動家庭の祈等について教区レベルの推進期間を定め何か行事なり運動をすべきでないか。

子供の信仰教育、宣教活動家庭の祈等について教区レベルの推進期間を定め何か行事なり運動をすべきでないか。

尚こういった集いに欠かせない、昼食会が行われた。欠かせないとは昼食なのでなく、アガベ(愛饗)は愛の交わりに通じる事を申しそえておきます。

文責 村上

信徒としてのあり方。(3)家庭での信徒としてのあり方。(4)折りとくらし。(5)教会の経済的自立。の5つのテーマにつき討論された。オリエンテーションのあと、5つの分科会に分かれ、各教会代表者による司会のもとに、夫々のサブテーマを中心に約2時間、発表、討議がなされた。その後、全体会に移り、各司会者による司会のもとに、夫々のサブテーマを中心に行は実行されることになった。総会の分科会の討議内容の集約、報告がなされ、今後の行動指針として夫々の教会に持ちかえり実行されることになった。総会のあと、記念のミサが行われ、参加者は総会成功的の喜びを神に捧げた。

人権を考え祈るミサ聖祭

去る十二月三日、午後一時半より、「人権を考え祈るミサ」が田中司教司式により、河原町教会で挙げられた。この祈りの集いは、仔羊会、ヴィンセンシオ、JOC、正義と平和京都協議会の四団体の協力により実現した。田中司教は「この様な集まりで、ミサを司式出来る事を大変嬉しく思います」と説教中言つて下さり、みんなも嬉しかった。

第一朗誦が終つたところで、四団体からの声を、参列者一同心をこめ聴いた。之等の声は後日、正平事務局から整理して公表されると思うので、ここでは一言づつにまとめさせていただく。仔羊会の伊達さんは、身障者の事、特に在宅の方々の日常生活の一駒を紹介された。

SVPの山口さんは孤独な老人の一駒を、特に彼らは周囲に人が沢山いるその只中であります孤独になつておられる。

JOCの方は、労働者の二十四時間を紹介され、その中で女性差別、最大の利益をあげるため労働者が如何に多くの犠牲を強いられている事か。正平協の大八木さんは、部落差別の実態と今年一年間の部落問題への取り組みの具体的決意を、表明された。之等四団体の方々の声に聞き入りながら、私達は無知無関心を恥入ると共に、私達が如何に多くの人々と、隣人になる事を、拒んでいるかに気づかされた。私達はこの不正、差別、争いが常にある社会の中、福音を重んじ、それを生きようとし、キリストの弟子たら

んとする団体なのだ。福音を信じると言う事は、隣人に對し絶える事のない関心を持ち続ける事に外ならないと思う。隣人に聽く時、いろんな事が見えて来るだろ。この新しい状況の中で私達は自分自身を反省し、回心を祈るだろう。そして隣人達によって聞かれた、この新しい状況の中で隣人達に支えられ、共に手をつなぎながら、本当の人間になつていい状況の中で開かれた、この新しさをつねに記憶する。この集会の後で皆で、反省会を開き、この「話し合いと祈りの集い」を皆で力を合わせ継続していくことを約束した。今後もっと多くの人々と一緒にこの新しい歩みを続けていきたいと切に願う。

「子どもの福音宣教」

— 浜尾司教 —

1月15日の午後、教理センターの主催で青少年司牧担当の浜尾文郎司教により、

「子どもの福音宣教」というテーマで講演が行なわれた。子どもの信仰教育は、家庭でなされるのが本筋、教会学校は、

その補助的な役割があるにすぎない。しかし子どもの信仰は大人の到達できない

大きな要因となつてゐるのではないか。

第一回、十一月十九日「昔の大学生と、

今の大學生と日本高等教育の現状」と題し、京都産大教授佐藤吉昭氏が講演。

道徳的見地から余り變つていないが親

と企業のエゴが現在の大学生像を形造つて

いる大きな要因となつてゐるのではないか。

第二回、十一月二十六日「日本人の食生活の洋風化」京大教授坂本慶一氏

現在米食を奨励しなければならない程に

日本人の食生活は洋風化している。農業

経済の立場から、必ずしも好ましい方向ではない事をフランス人の食生活の比較

十年後には二十一世紀の世界をリードす

ることのできない可能性を期待したい。反

面現在の日本の学校教育は他人に迷惑を

かけない様にということが強調されてい

いるがキリストはその様なことを一度も

教えたことはない。皆それぞれ弱さを持つた人間として、お互いに助け合いながら生きていこうという共同体の意識を育んでいた。進学、就職、結婚という価値観の今迄を反省し、回心を祈るだろう。そして隣人達によって聞かれた、この新しい状況の中で隣人達に支えられ、共に手をつなぎながら、本当の人間になつていい状況の中で開かれた、この新しさをつねに記憶する。この集会の後で皆で、反省会を開き、この「話し合いと祈りの集い」を皆で力を合わせ継続していくことを約束した。今後もっと多くの人々と一緒にこの新しい歩みを続けていきたいと切に願う。

市民教養講座

主催 南社連・後援教理センター

去る十一月十九日(日)より、三回連続して宇治商工会議所において、夫々の専門家を招き講演会が開かれた。今回のこの講演会には宇治教会の主任神父様はじめ信徒の皆さんに多大の協力を得た事を主催者、後援者は心から感謝している。

第一回、十一月十九日「昔の大学生と、今の大學生と日本高等教育の現状」と題し、京都産大教授佐藤吉昭氏が講演。

(その二)初の結婚互助会(丸山師指導)が十一月二十三日、北白川教会において開催。日本式庭園に映える未婚男性十五名、女性二六名、親御さん四名に加え、世話人丸山師以下二九名。折しもタイミングよく挙行されている教会での結婚式

によつて結婚の意義を痛感せられる。

自己紹介、華の会の指導によるゲーム、

ファイナーレのフォーケダンスとなごやかなうちに午後五時無事終了、若き人々に祝福あれ。尚この会開催に際し陰になり陽なたになり援助された方々に、神に感謝。

楽しくめでたい二つの集い

(その二)十一月十五日、桂、衣笠、西院北白川、西陣、長岡六教会の合同運動会空は今にも泣き出しそうな雨模様。下界は思わず吹き出ししそうな珍風景も見られる楽しい運動会が洛星グランドで行われる。中でも神父様のお支度競争、エプロン、スカーフを着用、ほうきバケツを両方に持ち競う姿は圧觀、司教様は一位でした。優勝杯は結局桂へ、空も意気に感じて、涙する事なく、結果は「からし種の会」誕生。その中からボランティア活動への高まりの意識盛上り、神に感謝。

(その三)初の結婚互助会(丸山師指導)が十一月二十三日、北白川教会において開催。日本式庭園に映える未婚男性十五名、女性二六名、親御さん四名に加え、世話人丸山師以下二九名。折しもタイミングよく挙行されている教会での結婚式によつて結婚の意義を痛感せられる。

第三回、十二月三日「現代つ子から見た親子関係」京都少年鑑別所長中根冬雄氏

非行問題は中流家庭の子弟に多く、こ

司教の足どり

(十一月～一月)



- 11月
18 パリゾー師講演「聖書と生活」
19 ⑪親交会(西陣)
20 家裁調停委員故者慰靈祭(関西アカデミー)
21 邦人司祭代表者会。S J管区長代理面談。
22 ⑪伊勢教会25周年ミサ
23 園部教会25周年ミサ
24 ⑪基督教協議会臨時総会(長崎)
25 ⑪伊勢教育信託ミサ
26 ⑪伊勢教会臨時総会(長崎)
27 ⑪伊勢教育信託ミサ
28 ⑪伊勢教会臨時総会(長崎)
29 ⑪伊勢教育信託ミサ
30 ⑪伊勢教会臨時総会(長崎)
12月
1 聖母の騎士女子修道会本部訪問。
2 伊万里トラピスチヌ訪問。
3 ⑪人権を考えるミサ(京都止平協ほか)
4 女子メリノール会代表と面談
5 京都教区カトリック保育協の集い
6 ⑪四日市堅信ミサ
7 ⑪四日市堅信ミサ
8 司祭評議会
9 カルメル会代表。故ブリオット師追悼ミサ、聖母訪問会代表と面談
10 WC R P事務総長と面談
11 ノートルダム教育三名の銀祝式。
12 教会学校教師研修(浜尾司教、三条)左記の通り司教様をお迎えして第一回拡大編集会議を開催します。
13 教区内での評議はさまざまですが皆様の御協力で一層充実した時報にしたいと思います。

～第二回拡大編集会議予定～

内容 時報改善のための会
会議 記事の書き方
研修 他

日時 2月18日 13時から16時半
場所 京都カトリック会館6F会議室
記録 司教司式によるミサ

邦人司祭Xマス忘年会
カトリック会館職員クリスマス会
31 ⑪ヴィアトール年末夕食会

邦人司祭Xマス忘年会
カトリック会館職員クリスマス会
31 ⑪ヴィアトール年末夕食会

祝 終生誓願

年の始めの一月六日、京都ノートルダム教育修道女会では二人のシスターの終生誓願式を祝った。この日午後三時より田中司教の主式で十一名の司祭方による共同ミサで壯麗に終生誓願式が挙行された。ノートルダム修道院の聖堂は、シスターの家族、友人、知人があふれ、新しい年の始めに二重のよろこびをわかつた。

マリスト会(十一月末実施)

△ウィックス師 御所教会主任代行

△ギニー師 富雄教会主任(奈良)

△ニュージェント師 帰国(御所)

△ハーコム師 帰国(富雄)

教区付邦人司祭(四月一日以後実施)

△岡 淑人師 山科教会主任(西院)

△花卉拓夫師 桂教会主任(山科)

△赤木嘉作師 教区事務主任(桂)

△松本秀友師 西院教会(教区事務所)

Sr.メリーナ・バトリシア久野
(大船教会)

Sr.ジャネット・田中(岐阜教会)

（）内は旧

ヤングエマウス・ワーキャンパー募集

募集人數 18才以上の男女(18才未満は保護者の承諾を必要とします)

参加資格 18才以上の男女(18才未満は保護者の承諾を必要とします)

参加期間 2月25日～3月31日まで連続して一週間以上(但し、事情のある方達のために参加日数その他を考慮します)



お 知 ら せ

教会学校教師研修会

日時 2月25日⑪午後1時30分
場所 京都カトリック会館6階
講師 山崎和雄氏

テーマ「教会学校の運営と指導」
会費 五百円

京都教区教会学校担当責任者会議
日時 3月21日(春分の日)
場所 京都カトリック会館6階

京都教区教会学校担当責任者会議
日時 3月21日(春分の日)
場所 京都カトリック会館6階

F A B C準備会。立正佼成会
ノートルダム小学職員Xマスミサ
24 ⑪市民クリスマスミサ(三条)
クリスマス司教莊嚴ミサ

人事移動

マリスト会(十一月末実施)

△ウィックス師 御所教会主任代行

△ギニー師 富雄教会主任(奈良)

△ニュージェント師 帰国(御所)

△ハーコム師 帰国(富雄)

教区付邦人司祭(四月一日以後実施)

△岡 淑人師 山科教会主任(西院)

△花卉拓夫師 桂教会主任(山科)

△赤木嘉作師 教区事務主任(桂)

△松本秀友師 西院教会(教区事務所)

奥村拓子 TEL (71) 4304
問合わせと申し込み用紙請求先
京都市左京区近衛町京大職員宿舎内

信徒使徒職とは···?

(最終回)

S V P、JOC、LM、正義と平和協議会など信徒使徒職活動をしている多くのグループがあります。

信徒使徒職はこのようなグループに属する人々だけのものではありません。グループに属していなければできないことでも、又、しなくてよいこともあります。信徒使徒職は信徒一人一人のものです。

教皇パウロ六世は、「福音宣教」で「信徒は特別な召し出しによって社会の中に生活し……」(88ページ参照)と述べております。

召し出しが、司祭、修道者だけのことではありません。信徒も社会のたために召し出されているのです。私達はその召し出しをよく自覚し、それに応えようとしているのでしょうか。

現在は不確実性の時代といわれます。何事も変動が激しく、確実なものは何もないという不信感が人の心に潜んでいます。現代の不幸の根源はこの不信があるのでしょうか。

私達はこのような社会に召し出され、確実なものを人々に示す使命が与えられています。そのためには先ず私達自身が変わりねばなりません。自分自身を変えることは難しいことです。豊かさに馴れた私達は貧しさを恐れます。単純な心でイエズス様に従うことがどれ程素晴らしいであるかを知りながら、そのようにすれば質しい生活を余儀なくされないかと

教会 寺西 弘教

(このシリーズについての文責 桃山

S V P、JOC、LM、正義と平和協議会など信徒使徒職活動をしている多くのグループがあります。

信徒使徒職はこのようなグループに属する人々だけのものではありません。グループに属していなければできないことでも、又、しなくてよいこともあります。信徒使徒職は信徒一人一人のもの

恐れます。自分一人ならばまだしも、家族までその貧しさにまきこむことは、家族に対する義務に反するのではないかと考えたりします。これでは、キリスト者がそこでふりがなが付いているのですか。現

在文字の読みない人は殆んどいないと思ふのですが……。この原稿を読まれた多くの方が、この何の変りもないことになります。

パウロ六世は、「信徒にとって固有な福音宣教の場として、家庭の活動を強調しないではないらません」(福音宣教89ページ)と述べておられます。安易に流れが

ちな家庭で先づ自分を変える必要があるのではないでしょうか。

信徒使徒職

私達の働く場では、信徒は自分一人というのが普通でしょう。しかし、自分の力で福音宣教を行うのではありません。福音宣教は個人的な孤立立たれません。福音宣教は行為ではなく、どこまでも教会の行為です(福音宣教77ページ)。そして、福音宣教の重要な働き手は聖霊自身である(福音宣教96ページ)ことを忘れてはならないと思います。

日本司教団信徒使徒職委員会が確認した信徒使徒職。

一、生活による信仰のあかし

二、ことばによる信仰のあかし

三、新しい共同体をつくること

について六回に亘って書きましたが、今回をもつて終ります。間違いや誤解を招く表現がなかつたかと気がかりです。皆

この御指摘をお待ちします。

(このシリーズについての文責 桃山

同 和 問 題 一 問 一 聞

一 答 一 連載を終えて

質問(一) 毎号の同和問題の箇所は、どうしてふりがなが付いているのですか。現

在文字の読みない人は殆んどないと

うのですが……。

この原稿を読まれた多くの方が、こ

の方と同じような疑問を持たれると思

うのです。

音宣教の場として、家庭の活動を強調しないではないらません

(福音宣教89ページ)

と述べておられます。安易に流れがちな家庭で先づ自分を変える必要があるのではないかと苦しみを感じさせています。

私はこの文章を書いたとき、この問題には少くとも昭和20年代に就学

は少なく(戦後、特に昭和20年代に就学、長崎の児童、生徒は多かつたが、

とりわけ未解放地区が多くつた)ある地

区の小学校の父兄の子は文字をまつた

く読むことができない状態で、こういう例は珍しくないです。10年前より

う例は珍しくないです。

10年前より

政府もようやくこの問題に真剣に取り組むようになり、「同和対策事業特別措

置法」により同和地区的解放を目指す

る。字を奪われた方々のため

には、社会学級、婦人学級を通じて識

字学級を開き、読み書きの勉強をするよ

うになつたので文字を読むことができる

人も少し多くなりました。この欄で

ふりがなをつけたのは、このような方々

のため、そして外国人の宣教師の方々に

もこの問題を正しく理解してほしいとい

うことからです。

質問(二) この連載記事で同和問題で今まで知らなかつたことを沢山教えていただけ

ました。(京都教区及び各小教区の教會

では、この問題にどの様に取り組んでい

るのでしょうか。

答 はい。京都教区では昭和52年9月に

- ①問題意識を広げるため今までカトリック会館で行なつて来た拡大学習会を定期的に小教区で行ないたい。
- ②悪質な差別文書(被差別部落のリスト等)をなくするよう、この様な文書が出来つつあることに抗議する。
- ③毎月第一金曜日に、現在被差別部落に住み込み、その人々と共に生きようとしているシスター方と一緒に「心のための祈りの会」を持つ。

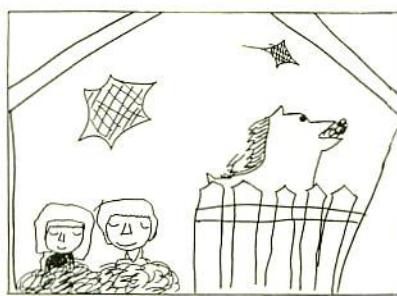
かみしばい クリスマスのおはなし
一年 なかじま じゅんこ



よせふさまとまりあさまが、たびをしていました。
そのときまりあさまのおなははおおきかった。た
びをするときは、ほしがきらきらひかる12がつ。



12がつ25にちうまごやでひとやすみました。
そのまえこういった「あそこでねましょ、やど
ないから、よせふさま」「うん、そうしょう」



きょうはうまごやでひとやすみ、わらのしいたわ
らふとんでねます。ぐっすり すーすーねます。



「おぎやあ、おぎやあ」「むにゅ、むにゅ」よせ
ふさまとまりあさまは、そのうるさいこえでおき
てしましました。まだまよなかです。はっときが
つくとあかちゃんがいました。ふたりは「よかっ
た」とおもいました。

読者の貢
教区時報
「ゆるしの秘跡」を読んで
飯尾悦子

クリスマスコ途中

「ゆるしの秘跡」を読んで

飯尾悦子

告解の秘跡から、ゆるしの秘跡へと改
定されるにあたり、神父様方から、その
必要性、方法等の説明を受けました。又、

教区時報では、特集でくわしく述べてあ
るのを読み、教会が、時代の流れにそ
て改革されるのであれば、私達も、回心
と刷新につとめる必要があると思います。

この中でも一番大きな特徴は、先に神
様が、私達を愛して下さった上での呼び
かけがあり、それにこたえて私達が、罪
を反省して、ゆるしの秘跡を受けること
が大切だとわかりました。

奈良教会において、共同回心式が行な
われた日、私は、心から「ミゼレの祈り」
を唱えることができました。このお恵み
を忘れないように心がけたいのです。
そして、「ゆるし」ということばの持つ

やさしさのひびきは、私にとつて何よりも
神様の無限の愛を、感ぜずにはいられ
ません。

「あなたのみことばによつて、私の歩
みを確かにし、どんな罪にも私を支配さ
せないで下さい。」詩一一九一一三三
(奈良教会)

独白

森 順藏

みを確かにし、どんな罪にも私を支配さ
せないで下さい。詩一一九一一三三
(奈良教会)

私は以前、召し出しというのは、司祭
になるとか修道者になるとかいったこと
だけではなく、自分達がおかれている家
庭、職場でキリストを考え、御旨にこた
えてゆけばよいと考え、またそのように
暮していました。(根本的には、今も同じ
気持ちです) 家庭、職場での犠牲、教会
活動への参加、そして地味ながらも小教
区を越えた青年の交わりの場としての隣
居連……。すべて充分ではなかつたけれ
ども感謝しつつ、日々の喜びとしていま
した。しかし、いつからか、別の欲求が私
の中で生まれ始めています。それは、
「もつと祈れないものか、生活そのものの
を、労働そのものを祈りに変えることは
できないものか」という望みでした。

文章としては、かつこうよく見えます
が、決してかつこうよいものではなく、
それだけ私の生活に祈りの部分が欠けて
いたという事です。そんな時私は、シャ
ルル・ド・フコーに出会いました。あく
まで人々の中で働きながらという事を前
提にしていた私にとつて、彼との出会い
は大きなショックであり、又神様の道を
照らす力強い光でした。

しかし、この心の高まりは本当に神様
からの呼びかけなのか、それとも單なる
自己の欲求に過ぎないのかわかりません
でした。それは、兄弟の家で生活するよ
うになつた今でも大きな問題であります。
しかしながら私が感じている事は、素直に
謙遜に神様の方へ心を向けることができ
る所で働くことです。罪人である私は、
しかしこれが人生で最も大切な事です。
これが生きることはできません。神によつ
て生かされている私は、それがどんな形
であつても神のために自己を捨て、生き
て生きることを求めています。これから私
が歩もうとしている道は、神様にしかわ
かりません。しかしその道を甘んじて歩
もうとしています。それが人々を通して
父である神に近づいてゆく道なのです
ら。

上よ、お話し下さい。

下僕は聞いております。(伏見教会)

一投稿規定一

この欄では、読者の皆さんの自由
な御意見を求めています。教会での
出来事、生活の中で印象に残つたこ
となども結構です。また「時報文芸」
では、和歌、俳句、詩を紹介します。

▽六百字以内 ▽住所 氏名 所属
教会 年令 職業を明記 ▽匿名希望の方はその旨を書いて下さい。

▽原稿は返却しません。

芽生え元 (+)

特別寄稿—山国の元青年より

新井 敏夫

「芽生え」(九)の記事を読まれた、山国教会の新井敏雄氏より次のような文をいただいた。これは古屋司教の山国入りをより正確にかつ、なまなましくお伝えすることができ非常に興味あるものと思うのでここに掲載させていただきたい。

(編集部)

「村の優秀な中堅青年を選抜し、現段階における祖国民主主義の実践者であり、文化日本再建の推進力となり得る人材を養成する」という目的を持って昭和二十三年十月三日から一週間の日程で、北桑田郡社会教育協会が主催した「農村青年秋季学校」が山国の方で開かれた。

会場は幽寂をもつて知られている常照

皇寺があつた。郡内から選ばれた青年

六十有余名が参加した。講師は12名に及

び、ノーベル物理学賞を受賞された湯川秀

樹博士など、各界の名士が顔をそろえ、

当時これだけの講師を得ることは大した

ことと巷間でいわれていた。

古屋司教様が講演されたのは十月七

日であった。この朝、教区長さまは、地

図を携えて河原町からボインターに乗ら

れ、一路山国にむかわされた。長途40キロ

メートルの道短で、途中、笠、栗尾の七

折れ八折れの峠があり、現在のように舗

装されておらずガタガタの砂利道であつ

た。なれぬ道のこととて注意深く走行され、いたが、魔のカーブともいわれている笠峰の大カーブで石車に乗られ、車もろとも横転されて、手足に可なりの傷を負われたのである。

教区長様が会場に着かれた時は、余程のおつかれの様であつたが、青年の前に立たれた瞬間から傷の痛みもすっかり忘れたかのように持前の熱弁を手真似、足真似、ユーモアたっぷり印象的な講演され居並ぶ青年から万来の拍手を受けられた。ある老人が青年に混つて一週間欠かさず講演を聞いていたようで、その時の様子を次の様に私に漏らしてくれた。

「一週間講演をいろいろ聞かせてもらつたが、古屋はあんほど、グッと私の胸に応えたよい話を聞いたことがない。ほんとうに上手に喋らはつたで！」

不幸にも峰で転ばれ、傷つかれた教区長さんは、この時のことが強く印象に残つたとみえて（事実、眼下は、断崖絶壁で身のすくむ思いのする場所である）それから後、山国に行かれる神父様方に対して、「山国に行くのでしたら、何時死んでもよいように痛悔の祈りやら一杯してから出発しなさいよ。」としばしばユーモアを飛ばせておられたと聞いている。

司教様が北桑田郡に、また山国に始め

てお出でになつた記念すべき日は、変な

いい方ではあるが、「生命がけ」であったといえる。幸い、大事に至らず金祝を迎

えられるまでお元気であり何時までもご

健康でありますよう、ひたすらお祈り申

し上げて止まない。

聖ドミニコ修道会司祭、ヴェンサン・

マリ・プリオット師は、一昨年米母國カ

ナダで病氣療養中であつたが、脳軟化症

のため去る十一月三十一日帰天。享年七

十五才。

師は一九〇三年十月十五日カナダ、ケ

ベックに生れ、オッタワ大神学院、英國

オックスフォード大学を経て、一九三一

年ベルギーで司祭叙階。

一九三三年（昭和八年）来日以来、仙台教区での宣教活動のかたわらカトリック雑誌「炬火」の編集長をつとめ、一九四〇年には京大文学部でインド哲学を研

究、また二十年間に亘つて同大学院で中

世哲学を講じ、京都日仏学院、ノートル

ダム女子大、聖カタリナ女子短大で教鞭

をとり、園部聖家族高校校長を歴任する

等アリスト師の教育界、特に哲学、宗

教学界への貢献は著しい。

師は哲学、神学論著の訳著者として

も學識者間に広く知られているが、京都



ヴェンサン・
マリ・プリオット
師逝く

◆冬の星座は何といつてもオリオン座。逆三角形の羊座は古来中国では天の国へ登る門。今年はブラックホール発見の可能性もあるとかないとか……。（き）

◆一句申し上げます。寒々やお、寒々や寒々や。何んです。これ？頭の方がお

寒いのでは？心が寒いのでは？皆様暖い冬をお過し下さい。（MT）

◆冬枯れの木立ちが蒼空にふるえます。

私たちには底冷えの寒さにふるえます。

何をするにも体の動きがにぶく、雪でも降ればと心のどこかがつぶやきます。

でも今では雪合戦より、雪見酒の方がいいかもしません。

◆長い原稿を縮めたり、短かい原稿を伸ばしたり編集部は四苦八苦！8枚の原稿を1枚に縮めたとえばつてはいる編集長最終原稿が只今到着！思わず万歳の歓声外は冷たいこがらし、内はぽかぽか暖房と、ほのぼの編集部の面々です。（O）



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
ば「互いに
も、投稿者
も編集者も。
心を開けあ